

6

これから先の藤沢市の財政は？

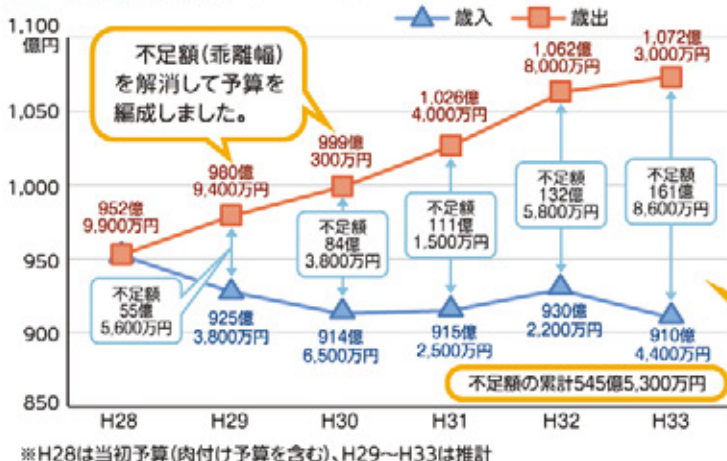
1 将来も藤沢市の財政は大丈夫なの？

これからの藤沢市のまちづくりでは、数多くの事業を計画しており、これらを実施していくためには多くの財源が必要となります。

収入の根幹となる市税収入は、経済情勢や税制改正など不確定要素はあるものの、中長期的には横ばいあるいは減少傾向で推移すると予測しており、財源確保がとても大きな課題です。



● 中期財政フレーム (一般財源ベース・平成28年11月時点)



歳出面では、少子超高齢化を背景とした扶助費などの増加や、市民センターや保育園、小学校などの老朽化した公共施設の再整備に要する経費の増加が今後も予測されることなどから、より厳しい財政運営が中長期的に見込まれます。

一般財源(市が自由に使うことができる財源)の数値であり、特定財源(使いみちが決められている財源)は含まれていないため、予算総額とは一致しません。

★ 中期財政フレームとは

今後の中期的(5年間)な財政見通しのことです。

藤沢市が平成28年11月に公表した中期財政フレームでは、一般会計予算の歳入(市税など)、歳出(扶助費や公共施設再整備の費用など)を一般財源ベースで試算したところ、5年間の累計で約545億円の財源不足が生じる見込みとなりました。中期財政フレームは、平成30年度に更新を行う予定です。

2 これからどうやって財政運営を行っていくの？

これまでは健全財政を保ってきましたが、これからは歳入が減少傾向にある一方、歳出は増加傾向にあることから、大変厳しい財政運営が見込まれます。

中期財政フレームにおける財源不足は、現在計画している事業をすべて予定どおりに実施した場合の見込額であり、毎年度の予算の編成にあたってはこの不足額を解消していかなければなりません。

今後は緊急性の高い事業を優先的に行うことや、事業を見直すことなどにより、歳出を抑制し、また歳入面においては、国・県補助金等の積極的な獲得のほか、市債や基金の効果的な活用などにより、財源確保に努める必要があります。平成29・30年度予算編成では各年度の財源不足を解消することができましたが、実施を先送りした事業もあることから、今後も継続的に中期的な財政見通しを立てながら、こうした歳入歳出両面での対策を行い、健全財政の維持に取り組んでいきます。